# 新型レシプロ冷凍機を開発

長谷川鉄工

## ベトナム限定で発売　大容量・省エネ実現

小野　良二社長

産業用冷凍機メーカーであり、自社冷凍機を使用した冷熱エンジニアリングも手掛ける長谷川鉄工（社長＝小野良二氏、本社・大阪市港区波除1－4－39）は、個別急速凍結（IQF）装置の熱源に適した新型レシプロ圧縮機ユニット（冷凍機）を開発。今春からベトナム向けに発売した。レシプロ冷凍機では大容量ゾーンとなる能力1千800キロワットの機種で、同社在来機種より省エネルギー性能を高めた。同社はまず、ベトナム限定で販売し、同国での実販動向を見ながら、その後、国内外の商圏全域へと販路を拡大する方針だ。

開発したのはVFL型という機種。同社在来機種より25％大容量化した。運転条件にもよるが、COP（成績係数）も業界で最も高い水準を落とすことなく、大容量機ながらレシプロ冷凍機の高効率を維持できるのが特長。小野社長は「レシプロ冷凍機の容量範囲の上限粋と、その上の容量をカバーするスクリュー冷凍機の下限粋のレンジを補う機種として提案していきたい」と話す。

販売先をベトナムに限定したことについては「ベトナムのメコンデルタ地域には多くの魚市場や水産加工会社が存在し、冷凍機が多く使用されているが、近年は漁獲量が減り、冷凍機を更新できない実情にある。一方で野菜や果物をIQF処理して食品加工の原料として輸送する向きがある。これに伴いベトナムではIQF装置の需要が増している。IQF装置への冷凍機供給は当社がこれまで日本国内で数多く実績を残しており、得意とする分野だ。それ故、従来のコア技術を生かしつつ、ベトナムの冷凍機市場で求められる大容量ニーズに対応した機種の投入を決めた」という。

同社は現在、ベトナム国内のIQF装置メーカーや大手設備業者、冷熱プラントメーカーなどにVFL型冷凍機を売り込んでいる。現地での反応は上々。「今後、ベトナム市場で拡販できそう」（小野社長）と期待する。

長谷川鉄工の今期（2017年度9月期）は前期比大幅増での着地を見込む。冷凍機販売は国内外とも例年並みだが、冷熱エンジニアリング事業が好調に推移している。昨年営業してきた複数の冷熱プラント工事を今期に受注できたことが大きい。同社が得意とする自然冷媒のアンモニアを採用した工事案件が自然冷媒機器普及に向けた環境省の補助事業に採択されたり、同社の客先となる漁業協同組合がロシア2000海里水域におけるサケ・マス流し網漁禁止に関する水産庁の緊急対策補助事業に採択されたりと、国の補助金活用の提案をタイムリーに実施したコンサルティング営業も奏功した。昨年商品化した除湿効果を伴う陽圧空調システム「DEMS」も大阪市内の大型低温倉庫の荷さばき室に採用され、導入実績を積み上げた。

冷凍機販売は今期、期末に向けて現状以上に販売量を伸ばしたい考え。特に海外向けを志向する。代理店を擁立するベトナム、タイ、インドネシア、フィリピンなどで実際に現地を訪問し、代理店と共にユーザーの元へ出向くメーカー営業を現在推進中。ベトナムでのVFL型投入は、巡回訪問の中で得た現地からのニーズに応えたもの。